

第 23 回

夢をアイデアに、アイデアをカタチに

平成 28 (2016) 年 1 月

先日、2015 年“夢アイデア”の謳い文句“夢のような話を本気でしよう”に誘われて、過年度の作品集を読み返してみた。600 を超える作品には、単に夢に終わることなく、うまく工夫しながらカタチとなり、市民権を得ている事例が少なからずあった。また、今の時代に同化しうる作品もあり、続編として本気モードでその実現などについて語るのも楽しいかも知れないと思った。

そこで、作品集を提案者の立場から私なりに 5 つのテーマに整理してみた。

- ① 思い出話にまつわるもの
- ② 社会風潮や時代変化に即したもの
- ③ 我が国の歴史・風土にスポットをあてたもの
- ④ 日常生活の経験知から導き出されるもの
- ⑤ まちの顔に関するもの



私は、過去②, ④, ⑤に関する 4 作品を提案した。さらに深読みしたところ、ふたつの背景が見え隠れした。(注 1) ひとつは人口が減り、少子高齢化社会の到来に限界集落なる世相そして田園回帰なる展開にそった提案。(注 2) もうひとつは、未来の移動環境への取組や現状の“まち”を元気にする仕掛けに係る提案であった。(注 1) 作品番号 A1-403 (注 2) 作品番号 A1-610,B2-1137,B3-1211

これらの作品を読み返して、その実現に期待したいことは、時代は変わっても老若男女がどこに居ても生き生き暮らせることであった。夢を常に追いかけるのもいいが、中にはひとつふたつ“カタチ”になって多くの方々と共に楽しめるともっとイイなあと・・・定年後、とみに思うようになった。

その意味でアイデアがカタチに進化した作品として、最近では記憶に新しい「羊・ヤギプロジェクト」がその実例かも知れない。今年の 8 月下旬、舞鶴公園にて福岡市民に公開し多くの関心を集め反響が大きかった。また「思い出ナビ」や「夕日風景時計」も関心を集めているらしい。手前味噌になるが、筆者の提案を機に始まった「共助研」活動も気づけばもう 7 年目に入った。お陰様で多くの建設コンサルタントの皆様や地域で活躍するオピニオンリーダーの方々と出会い、自分磨きにそして多方面に様々な効果を生むことができた。

これらの活動に共通するのは、働きかけるスタッフと体験または協働される方々が共に楽しい場を共有し、様々な工夫により継続していることであろう。さらに、クチコミあるいは開拓行為により多くのパートナーシップが増えるのも、また新しい夢を生み、カタチへと成長する糧を得ることに繋がっている。

ところで、以上述べた“アイデアをカタチに”への筆者の想いと同趣旨の記述が夢アイデアコラム 21 号にあった。『何より持続する志、過去の夢アイデアの具体化、実践化を探る「夢を夢に終わらせない」提案が目立ち、「夢・アイデア」10年の年輪を感じさせる』と。改めて「夢を夢に終わらせない」仕掛けが必要と思った。

ところで、九州の8割の市町村で60歳以上クラスが転入超過らしいのだが、地方創生の為にもっともっと、この傾向を持続させたいものである。そこで、私たちプロボノが、経験知を活かした次の一步を目指すための「持続する志」の実践案を考えてみた。

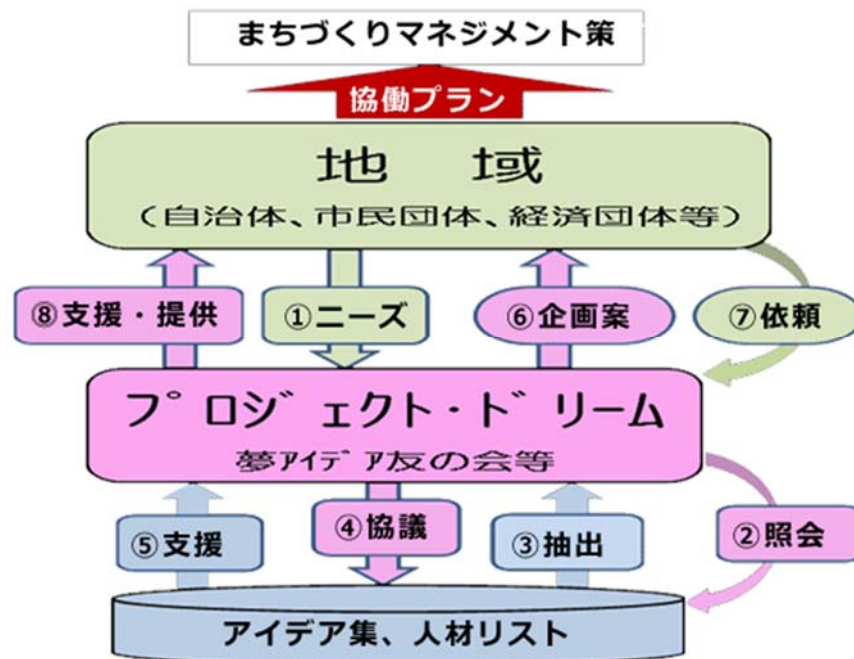
～ 夢アイデアを活かそう ～

- 行政、市民、企業をつなぐ友好ツールとして
- コミュニティ・デザイン（人がつながる仕組みで地域を変える）に活かす知見に
- 連載タイプの広報活動（自治体広報紙利用）を地道に実施
- 企業～NPOの連携による傑作を「日本パートナーシップ大賞」獲得へ

こうした取組を手始めに、試行を重ねつつ市民権を得る展開に運ぶためには、次のような枠組みでチーム＝プロジェクト・ドリームを編成し（夢アイデア友の会、建コンOB、その他グループにより構成）実働させたい。

地域からのニーズに個々のアイデアを照合・編集し、多彩なカタチ(1)～(3)にするロングテール方式（小さな施策で広い需要の掘り起こし）を進める。

- (1) 地域イベントを盛り上げて経済効果を生む
- (2) 地域に力と次世代に希望を与える
- (3) 地域による公物管理に美味しい味付けを施す



ぜひ、夢を儂くしたくない方や次世代に様々な DNA を届けたいという志高き方々、まず一步を踏み出しませんか？

赤星 文生
 (一社)九州地域づくり協会上席参事